

Pink Ribbon 2015 plus

乳がんの早期発見・早期治療を訴えるピンクリボン運動。今月からこのコーナーは、タイトルを「ピンクリボンプラス」とし、乳がんだけでなく女性特有の病気や症状についても取り上げていきます。第1回は、乳がんの最新治療について、くまもと森都総合病院副院長の西村令喜医師に話を聞きました。

INFORMATION

5月10日(日)、熊本テルサで「乳がん市民公開講座」開催

治療の最前線で活躍している専門医が、乳がん治療について分かりやすく解説。気になる疑問にも答えてくれます。入場は無料ですが、定員になり次第、募集は終了。お早めに申し込みを。

日時
5月10日(日)
開場13時、開会13時半～

会場

熊本テルサ1Fテルサホール

主催
中外製薬株式会社
プログラム

開会・閉会挨拶(くまもと森都総合病院副院長、西村令喜氏)
「熊本県における乳がん検診の現状」(熊本県保健センター所長・土竜直俊氏)
「乳がんはどんな病気?」(くまもと森都総合病院乳腺センター長・大佐古智文氏)
「乳がん診療における病理診断の重要性」(くまもと森都総合病院診療部長・有馬信之氏)
「乳がん診療のパラダイムシフト」(熊本大学大学院乳腺内分泌外科学・岩瀬弘敬教授)

問学会サポートセンター熊本
☎096(212)3162

今回のテーマ

乳がん

自分に合った治療法を選ぶには…? 乳がんの最新治療

pink ribbon 2015



—最新の乳がん治療について教えてください。

西村 ひと口に乳がんといっても、比較のおとなしいタイプのものから、がん細胞の増殖が活発なもので、さまざまなタイプがあります。このため、乳がんの初期治療では、「ホルモン感受性の有無」「乳がん細胞を増殖させるタンパク質(HER2)の有無」「がん細胞の増殖能力」を基に5つのタイプに分け、タイプに合った薬物治療を行います。また最近では分子標的治療薬の登場で、これまで難しいといわれてきたHER2タイプ2タイプの乳がんの予後が向上してきました。しかし、患者さんの状態は一人一人違いますので、主治医がその人に適した治療を総合的に判断して選択する「個別化治療」が行われることとなります。

—乳がんには、新しい治療法や薬が次々と開発されているのですか。

西村 治療法だけではありません。ホルモン治療は5年から10年近く続くため、その間、妊娠できません。このため、妊娠・出産の可能性がある方には、あらかじめ卵子凍結や受精卵の保存などについて提案することもあります。手術や治療をしただけで終わりではなく、患者さんのQOL(生活の質)を高めるために、チーム医療でサポートする体制を整えることが大切な時代になっています。

—乳房再建手術について教えてください。

西村 2013年に乳房再建手術の保険適用範囲が広がったことから、乳房再建を希望する方が増えていきます。乳房再建は、乳腺外科と形成外科が連携して行います。乳がん手術をした際に、皮膚を伸ばすエキスパンダーを挿入し、一定期間後に、シリコンなどのインプラントを挿入するのが一般的です。再建手術を行うためには、乳房の全摘が必要になりますので、メリットやデメリットなどを事前に医師に相談し、納得した上で治療を受けることが大切です。

—自分に合った乳がん治療を受けるにはどうしたらいいのでしょうか。

西村 インフォームドコンセントで納得のいく説明を求めるのはもちろんですが、自分でも病気について勉強し、正しい情報を得ることが大切です。その上で、分からないことは主治医に相談し、納得した上で治療を受けましょう。必要に応じてセカンドオピニオンを求めたり、体験談を聞いたりすることもお勧めします。乳がんは早期発見・早期治療で完治が十分可能な病気です。まずは定期的な検診や自己検診で早期発見を心掛けてください。



くまもと森都総合病院副院長・乳腺センター
西村 令喜 医師